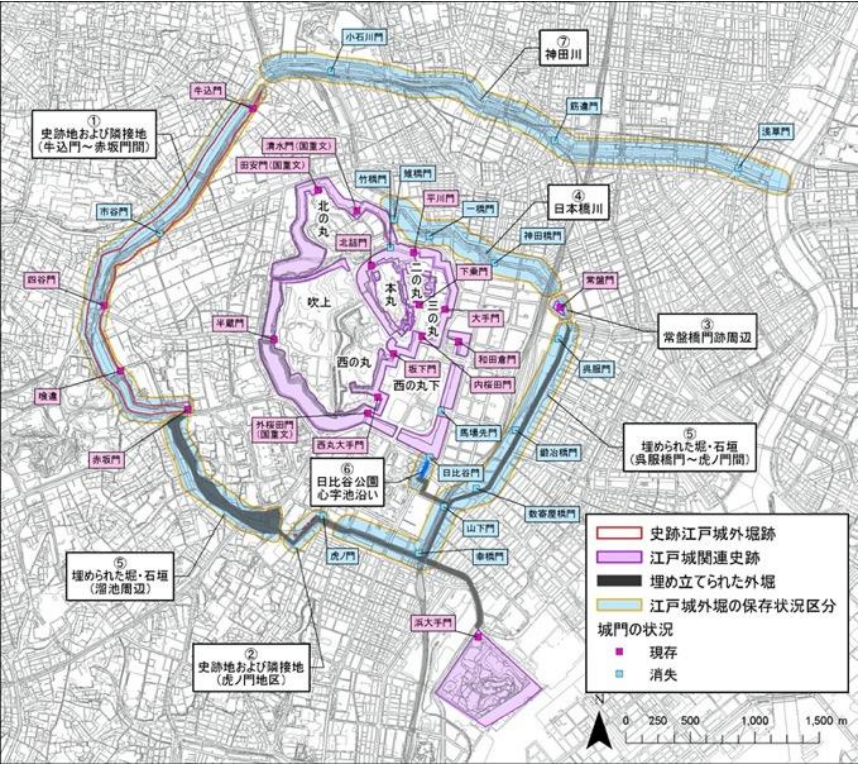


特別史跡江戸城跡全体像と保存状況



特別史跡江戸城跡は、田安門・清水門・外桜田門の重要文化財のほか、建築遺構として城門や櫓、番所も残り、江戸城総構えの跡として史跡江戸城外堀跡、常盤橋門跡のほか日本橋川の石垣や神田川など高度利用された都心のなかで全体像が把握されるように残っています。これらは、周囲14kmにも及ぶ巨大城郭であった江戸城跡であり、都心に残る歴史の痕跡からは政権都市であった城下町の構造や街道整備の跡を知ることができます。

江戸城本丸には天守や御殿は幕末の火災等によって焼失し城跡もあるが、絵図のように皇居内には復元建物も含めて城門や番所、櫓なども多く残っていることがわかります。

80前後の城門（見張所）に積み上げられた石垣は400万個以上

江戸の初動期、家康と家光の残した城門と石垣

江戸城は徳川将軍家三代の約半世紀をかけて天下普請として築城した我が国最大級の城郭です。家康・家光時代の城門、石垣も良好に残っています。



家康の時代

家光の時代

近未来の世界遺産を目指す
江戸東京歴史文化資源 & Platform
プラットフォーム



日本三大祭の一つ 神田祭



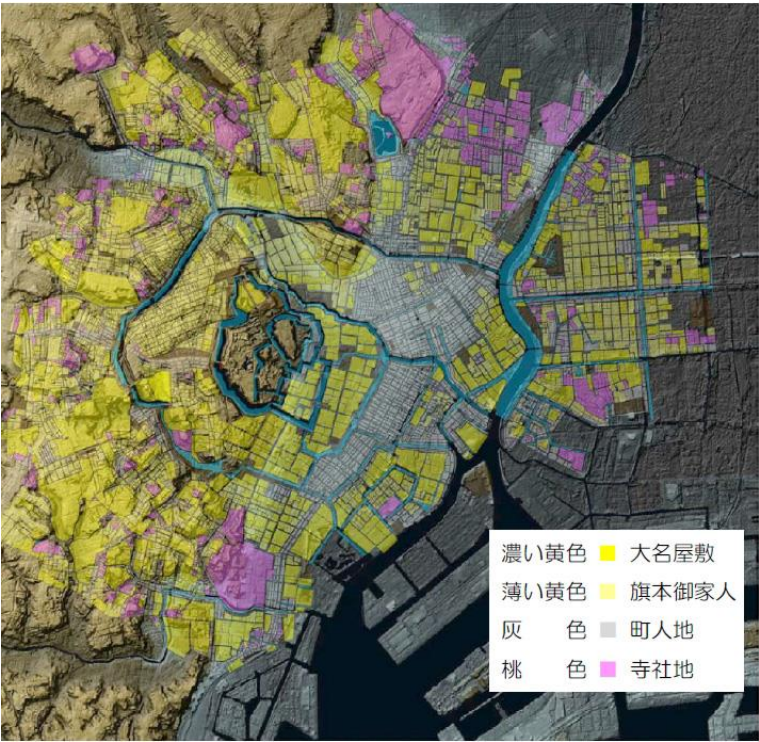
一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

江戸東京歴史文化ルネッサンスプラットフォーム Platform

江戸東京の歴史文化資源の源流

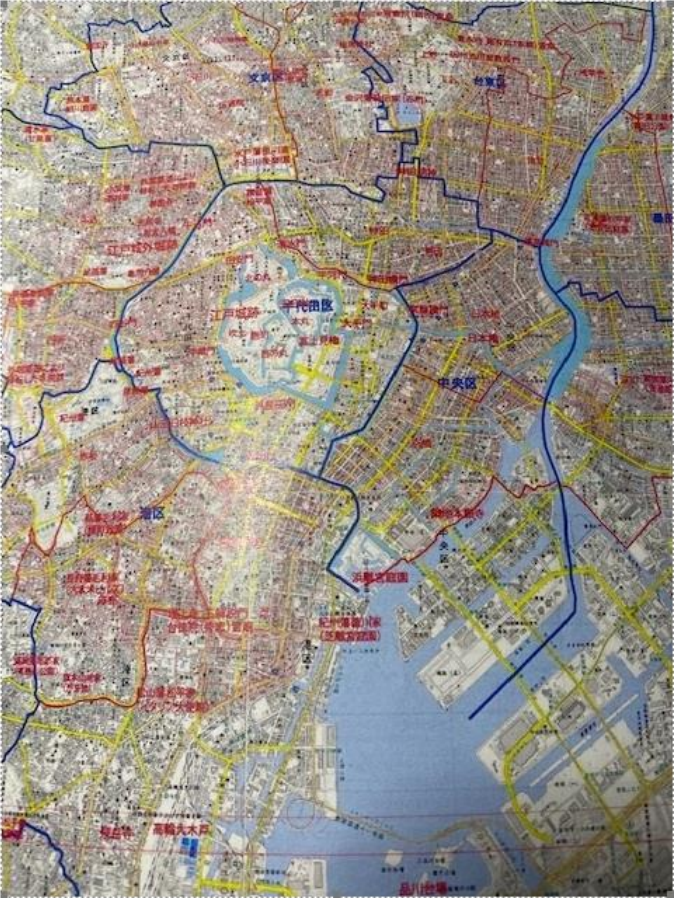
本丸御殿等、江戸城全体整備構想策定活動・テーマの源流

世界でも群を抜く東京の生態系や自然条件 江戸の地形と町割り



東京は「江戸城が湾を見はらす武蔵野台地の突端にあり、東に水路が巡る下町、西に緑の多い山手は起伏が多く丘と谷が創りだすダイナミックな大地の上に古代中世の古層ができ、その上に江戸の城下町がつくられた。斜面には湧水も多く小さな川が無数に流れ生態系や自然条件からみても、**その固有性は世界でも群を抜いている。本来は土地の起伏や自然条件を勘案すれば、東京の魅力はさらに、グレードアップするに違いない。**」(環：vol59 東京に秘められた水都としての可能性 陣内秀信)このように大地に人類が住み始めて以来、自然と一体となり弛まぬ時空を重ね、世界に類をみない江戸東京の歴史文化を創ってきたのではないのでしょうか？

城下町に残る江戸城跡の痕跡



特別史跡江戸城跡は、皇居と城跡が併存し、四季折々の自然にも囲まれています。自然と一体となった、世界にも類のない雄大で美しい城郭を形成し、世界遺産にも十分に匹敵すると云われています。櫓、石垣やお濠、城門や天守台の遺構、失われた本丸御殿などの歴史文化資源の痕跡も窺われます。

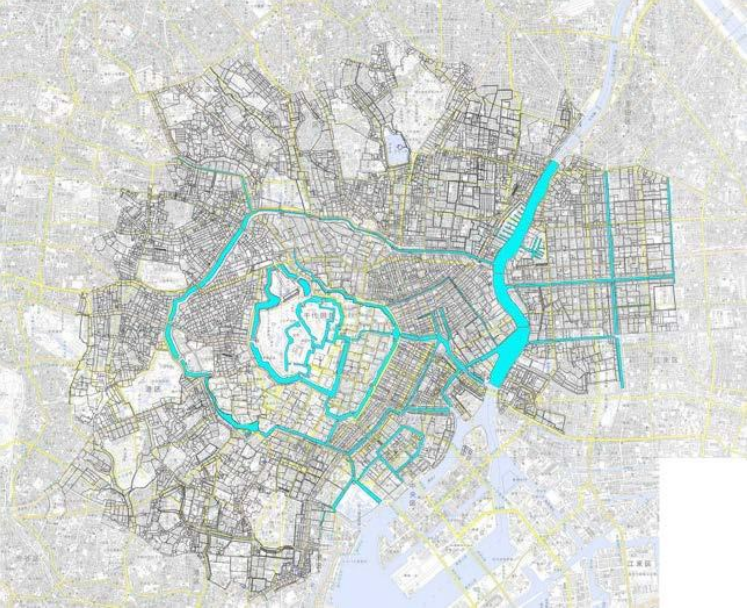
現在の東京は、城（castle）と宮殿(palace)の両者が同一場所にあり、世界を見渡しても特異な都市といわれています。江戸城の最強の要塞であった外濠や江戸城跡の歴史文化遺産の傑出した価値は、世界に類がないと言われています。

東京の近年の再開発で歴史文化資源が失われ、自然環境や歴史性が失われていく危機感がある中、高度化した都心の再開発が激しい地域でも多数の歴史文化資源が分布していることが良く解ります。しかしながら、それらは群としての全体像として「見える化」には至っていない現状にあるといえるでしょう。

現在の道は江戸以来の旧街道 江戸東京の地域特性と江戸城

江戸城の城門（田安・半蔵・外桜田・常盤橋・神田橋）から放射状に延びる旧街道は、現代の道であり街区の多くは、江戸時代以来のものであるとわかります。

江戸・東京の街並みは、江戸時代の江戸城跡を中心に街区が形成され、近代以降、**旧江戸城は皇居となり、大規模な大名屋敷など、武家地跡は役所や大学、邸宅地となりました。**日本橋を代表とする町地は、**現在も商業地として受け継がれ、多くの寺社は今も残り、城下町を伝えています。**江戸城下町の範囲は、四里四方（約16km）といわれ、巨大城下町を形成していました。そのため、それぞれの地域で特有の歴史文化遺産が分布しているのが確認できます。



現代の主要道を黄色に着色し江戸と現代の街区の比較した図

歴史文化資源やまちづくり活動等についてウェブサイトなど多様な媒体で情報発信を検討

